

## 南相馬市まち・ひと・しごと創生有識者会議意見まとめ

## 資料3

第1回会議(平成27年5月9日)

第2回会議(平成27年7月4日)

## 南相馬市の良いところ

- 気候が良い。
- 頑張っている人が多い(特に震災後)。
- のんびりしている。
- 1世帯当たりの子どもの数が多い(震災前は日本一だった?)。
- 海・山がある。
- 人があたたかい。子どもが素直。
- 相馬野馬追
- 積雪がなく、気候も良く、交通も便利。農産物や海産物もおいしい。
- 農作物を周年でつくりすることができる。
- 出荷する農産物はすべて放射能検査をしており、安全である。
- 都会から来た人からすると、庭が広く住みやすい。
- 海の波がよく、サーフィンのメッカ。周辺を整備し直せば売りになる。
- 空気がおいしい。

## 南相馬市に望むこと

## 地元企業支援

- 企業誘致ばかりでなく、地元企業の育成をしてほしい。
- 賃金が上がれば労働者は増える。地域の賃金が上がるような取り組みをしてほしい。
- 家庭にしながら企業の軽作業を手伝う「内職バンク」の仕組みをつくってほしい。

## 企業誘致の推進

- 柔軟なシフトが組める、働きやすい企業を誘致すべき。
- 託児施設を完備し、簡単に倒産することがないように大企業を誘致してほしい。

## 農業支援

- 地元の食材を学校給食で使ってほしい。
- 農業法人の立上げを支援し、主婦層等女性労働力や農業高校の卒業生の受け皿としてほしい。
- 南相馬市の野菜は、現在価格が安いので、農業法人が出せる賃金も低くせざるを得ない。そういったところへのバックアップがあれば法人が増え、若い人も入りやすくなると思う。
- 周年で農作物をつくれること、常磐道の開通で首都圏への出荷もしやすくなったことをPRしてほしい。

## 中心市街地活性化

駅前通りに駐車場を整備してほしい。

## 相馬野馬追

「内輪の祭」のイメージが強い。外部の人がもっと気軽に参加できる工夫が必要。

首都圏ではほとんど知られていない。知名度を上げる努力を。

野馬追を未来に伝えていくためには、甲冑師や染物屋など裏で支える人のバックアップも必要。

馬事文化というだけでなく、歴史、文化の面からも野馬追をPRすべき。

「ひばりFM」は、ラジオだけでなく、スマートフォンのアプリで聴くことができる。ひばりFMでは相馬野馬追の生中継をしているため、それを全国に向けて発信してほしい。

## 子育て支援

震災後、この地域で頑張ってきた人に対する支援をしてほしい。

女性が仕事をするためには子どもを保育園に預ければいいという簡単な話ではない。様々な障壁があるので、多角的に検討してほしい。

男性が育児休暇を取得しやすいまちになってほしい(ワークライフバランスの推進)。

父親としての自覚を促すため、希望者に対し「父子手帳」を交付してほしい。

「シングルファーザーも暮らしやすいまち」を目指してほしい。

中小企業では男性社員が育児休暇を取得することは困難(代わりがない)。そういったところへの行政支援を求める。

医療環境を充実してほしい(自前でできなければ、高度医療を受けるための通院支援等)。

## 自然環境・景観

北泉海岸を、もう一度サーフィンの世界大会が開かれる海岸にしてほしい。

## 教育

全国平均と比較し低いと言われる学力の向上。

医療や福祉の知識のある子どもの増加。

## スポーツ

スポーツ関係の大きな大会を誘致してほしい。

## まちのPR

「のまたん」の市公認キャラクター化、グッズ展開。

首都圏できちんとPRすれば、関心を持つ人は相当数いる。効果的なPR手法を検討してほしい。

「のまたん」や「ディネード」を使って、外に向けてPRすべき。

## 移住・定住

独身者向けの移住施策をつくってほしい。独身者の方が身動きが取りやすい。

家賃が高い。空き物件がない。市に対する注目度が高い今こそ受け入れ体制が必要。

移住希望者が初めて南相馬市を訪れたときに、ワンストップで話ができる場づくり。

移住しようとする地域がどいった地域か、事前に情報が得られるようにしてほしい(隣組、風習等)

## 職員研修

復興を進めるため、職員が習得すべき知識等を身につけるための研修体制を構築すべき。